

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 15 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008 ～ 2012

課題番号：20390543

研究課題名（和文）「山口県遺伝看護卒後教育推進プロジェクト」構築に関する実践的研究

研究課題名（英文）A project to promote postgraduate genetic nursing education in Yamaguchi prefecture

研究代表者

辻野 久美子（TSUJINO KUMIKO）

琉球大学・医学部・教授

研究者番号：60269157

研究成果の概要（和文）：

2008年度から2012年度にかけて第一次プロジェクトを完了し、さらに2012年度には第二次プロジェクトに着手した。第一次プロジェクトにおいては、山口県における遺伝看護の卒後教育と実践に関する課題を明らかにし、遺伝看護卒後教育継続実施のための有効な方策について検討した。第二次プロジェクトにおいては、第一次プロジェクト終了後も引き続き遺伝看護の卒後教育を継続できるように、参加希望者のメーリングリストを作成した。研究成果は国内・国際学会で発表した。

研究成果の概要（英文）：

We completed the first project on genetic nursing in 2008-2012 and started the second one in 2012. In the former project we clarified the subject concerning the education and practice on genetic nursing after graduation in Yamaguchi prefecture and took useful measures to meet its continuation practice. In the latter one we made mailing-list of the participants to keep it on after the former project. We presented of it in the national and international nursing meetings.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2009年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2010年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2011年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2012年度	2,400,000	720,000	3,120,000
総計	13,000,000	3,900,000	16,900,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：遺伝看護、卒後教育、山口県

1. 研究開始当初の背景

ポストゲノム時代を迎え、遺伝医療はますます重要になっている。遺伝病に限らずこれまで遺伝との関係が不明であった生活習慣病や多くの疾患についても、その成因や病態

の解明、治療の開発など、遺伝医療に対する期待は大きい。その一方で、遺伝医療がクライアントや家族にもたらす生命倫理上の問題や弊害についても認識され始めており、医療職者は遺伝医療について十分な見識およ

び胆識を養うことが必要になっている。しかしながら、現在わが国の看護基礎教育において、「遺伝看護学」は独立してその地位を確立するまでには至っていない。したがって、学生時代に遺伝看護を学んだ看護職者は限られている。このような状況を受けて、本研究では山口県の遺伝看護教育の実態および遺伝看護の実践状況について調査し、遺伝看護における教育的支援を実践するための「遺伝看護卒後教育推進プロジェクト」を構築する。

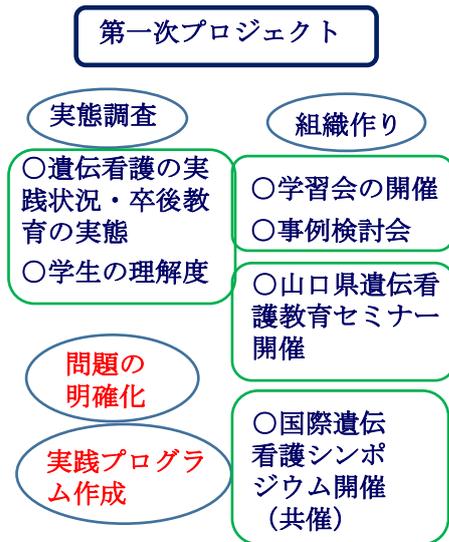
2. 研究の目的

本研究は報告者が暮らす山口県において「遺伝看護の卒後教育」を推進し、一人でも多くの看護職者が患者（クライアント）・家族の求める最良の看護ケアを提供できるように、看護職者に教育的支援を行う実践的研究である。

3. 研究の方法

平成 20-24 年度および平成 24 年度の二期に分けて、下図の内容を計画した。

H20-24



H24

第二次プロジェクト開始

○山口県遺伝看護研究会ネットワーク作り
○メーリングリスト作成

4. 研究成果

I. 2008-2012年度：

山口県遺伝看護卒後教育推進第一次プロジェクトを完了した

(1) 山口県における遺伝看護の卒後教育と実践に関する問題を明らかにし、遺伝看護卒後教育継続実施のための有効な方策について検討した。実態調査結果は以下のとおりである。

①山口県下の看護師167名、助産師84名全員が、何らかの遺伝看護ケアに携わっていた

②出生時(後)の先天異常のケアの経験者が最も多く67%、出生前診断(内容)の相談が20%で最も少なかった

③出生時(後)の先天異常のケア実施においては、心理面の援助とタイミングの回り方に最も強い困難感を抱いていた

④遺伝看護の知識に対する苦手意識は全体では少なかったが、ケアを実施した経験者においては、半数以上が知識のないことで困っていた

以上の結果より、本プロジェクトにおいては、講義形式の座学の他に、事例検討をとおして疾患を理解し、遺伝看護ケア、遺伝の基礎知識を習得できるように、下記(2)について教授法、学習形態を工夫した。

(2) 講演会、教育セミナー開催：

①遺伝看護教育セミナー(参加者60-100名)

- ・染色体異常のある娘をもつ母親の語り
- ・遺伝看護の現状；神経疾患、家族性アミロイドポリニューロパチー
- ・家族性腫瘍の患者およびご家族への対応ケア

・Genetics and nursing - developments in the UK and Europe (STTI共催)

②遺伝看護教育ワークショップ(参加者16-40名)

・Ethics and genetic nursing: sharing our concerns and looking to the future

・先天異常のある子どもに関連した倫理的問題と遺伝看護(遺伝医療にかかわる患者の意思決定支援)、25週で胎児発育不全を指摘されたが、積極的な医療介入を希望されず、子宮内胎児死亡となったケース

・先天異常に関連した倫理的問題と遺伝看護(Ethical issues in case study of fetus with congenital abnormalities)、妊娠26週で胎児発育不全、妊娠28~29週で先天奇形(水頭症、二分脊椎)、12トリソミーモザイクと診断され、分娩形式・出生後の処置に対して夫婦の意見が異なったケース

③ワークショップの進め方に関する工夫: 下記の進行方法により、事例および講義の内容理解が深まった

事例提供

- ・事例報告(資料に沿って)
- ・事例提供の理由

↓
ディスカッション (参加者全員)

↓
事例に基づいた講義、解説
(ファシリテーター役の講師)

↓
まとめ

- ④講演会、ワークショップ開催における広報の工夫
- ・ポスター作製 (イラスト入り、カラー版)
 - ・ポスター掲示および配布 (山口大学内、山口大学医学部附属病院内全病棟、山口県看護協会)
 - ・インターネット・メールの活用
- ⑤遺伝看護学習ホームページ開設

(3) 本プロジェクトの成果：

- ①遺伝看護に対する関心・興味の増加
- ・勤務後にもかかわらず、20時過ぎまでかかるワークショップへの自発的な参加
 - ・看護職者以外の職種の参加 (ST、PT、検査技術科学専攻教員)
 - ・山口大学医学部附属病院遺伝子診療部担当を受諾する看護職者の増加
 - ・メーリングリストへの自発的な参加
 - ・大学院で「遺伝看護学」を受講する山口大学医学部附属病院ナースの増加
- ②遺伝カウンセリングについて、患者への積極的な情報提供および医師への積極的な照会が、看護職者によって日常的に実施されるようになった

II. 2012年度：

第二次プロジェクト開始に向けた取り組みを開始した

(1) 第一次プロジェクトで取り組んだ内容を今後も継続実施し、山口県の遺伝看護卒後教育がさらに充実するように、参加希望者のメーリングリストを作成した

(2) 国内・国際学会で研究成果を発表した

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 32 件)

① Murakami K, Tsujino K, Sase M, Nakata M, S. Kutsunugi S, Japanese women's attitudes towards routine ultrasound, Nurs Health Sci. 14 (1), 95-101, 2012(査読有)

② 古謝安子 (7名、1番目)、看護学生による「苦悩する家族物語」自作自演過程の評価. 医学生物学速報会、医学と生物学、155(9):613-620、2011(Sep.) (査読有)

③ 辻野久美子、近年の看護師・保健師国家試験における遺伝関連問題出題状況と課題、日本遺伝看護学会誌、8巻1・2号、21-23、

2010年(査読有)

④ 杳脱小枝子、辻野久美子、村上京子、塚原正人、酵素補充療法を受けたムコ多糖症II型患児の看護-経過報告と今後に向けての課題-、日本遺伝看護学会誌、8巻1・2号、1-6、2010年(査読有)

⑤ 村上京子、辻野久美子、杳脱小枝子、飯野英親、伊東美佐江：看護職の遺伝医療への関わりとケアに伴う困難感 -山口県における周産期・小児領域看護職の現状-。日本遺伝看護学会誌。10(1): 61-69, 2010(査読有)

⑥ H. Skirton, K. Murakami, K. Tsujino, S. Kutsunugi, S. Turale, Genetic competence of midwives in the UK and Japan, Nursing and Health Sciences, Volume12 Issue3, 292-303, 2010(査読有)

⑦ Turale S, Murakami K (3名、1・3番目), Nursing scholarship in Japan: development, facilitators, and barriers, Nursing and Health Sciences, 11(2), 166-173, 2009(査読有)

⑧ K. Tsujino, Challenges and prospects for genetic nursing education in Japan. Nursing and Health Science, 11(1), 102-102, 2008(査読有)

[学会発表] (計 45 件)

① Tsujino Kumiko, Change in nursing students' image of autism- Through rehabilitation volunteer activities, The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2013. 2. 22, The Emerald Hotel, Bangkok, Thailand

② Saeko Kutsunugi, Nursing care for children with PWS and their parents, ISONG 25th Annual Conference, 2012. 10. 26, Philadelphia, Pennsylvania USA

③ 辻野久美子、出生前診断に対する大学生の意識、第30回日本看護科学学会学術集会、2010年12月4日、札幌コンベンションセンター

④ 村上京子、遺伝医療における周産期・領域看護職の関わりとケアに伴う困難感、第9回日本遺伝看護学会学術集会、2010年10月3日、慶応義塾大学信濃町キャンパス

⑤ K. Tsujino, Assessment of Genetic Content in Japan's National Board Exams for Registered Nurses and Public Health Nurses, 2004-2008, 22nd Annual ISONG Conference, 2009. 10. 18, The Catamaran Resort, San Diego, California USA

⑥ S. Kutsunugi, Nursing practice for a child with Mucopolysaccharidosis in enzyme replacement therapy-Case Report-, 22nd Annual ISONG Conference, 2009. 10. 18, The Catamaran Resort, San Diego, California USA

⑦辻野久美子、遺伝看護教育の方略；看護基礎教育の中の位置づけ、第8回日本遺伝看護学会学術集会、2009.9.12（パネルディスカッション）、広島大学

⑧K. Tsujino, Creation and utilization of a “child-care notebook” for supporting children with congenital anomaly, 21st Annual ISONG Conference, 2008.11.9, Sheraton Society Hill, Philadelphia, PA USA

⑨K. Murakami, Woman’s Knowledge and Expectation of the Routine Ultrasound Screening in Japan, 21st Annual ISONG Conference, 2008.11.9, Sheraton Society Hill, Philadelphia, PA USA

⑩Tsujino K, Challenges and prospects for genetic nursing education in Japan, 10th Anniversary Symposium of Nursing and Health Sciences, 2008.10.18, Ube, Japan

〔図書〕（計2件）

①塚原正人、辻野久美子、ナースとコメディカルのための小児科学第3版、総ページ数414、（分担）先天異常の種類と特徴、109-112, 日本臨床社, 2010

②辻野久美子、塚原正人、ナースとコメディカルのための小児科学第3版、総ページ数414、（分担）先天的な問題を持つ子どもと家族、119-124, 日本臨床社, 2010

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

(1) ホームページ

①遺伝看護学習ホームページ

<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~shouni/index.html>（2011年～）

(2) 教育用DSソフト

①辻野久美子、病態生理DS：病態生理事典（分担）先天異常、2011年

②辻野久美子、病態生理DS：病態生理事典（分担）先天奇形、2011年

③辻野久美子、病態生理DS：病態生理事典（分担）遺伝子異常、2011年

④辻野久美子、病態生理DS：病態生理事典（分担）単一遺伝子病、2011年

⑤辻野久美子、病態生理DS：病態生理事典（分担）多因子遺伝病、2011年

⑥辻野久美子、病態生理DS：病態生理事典

（分担）常染色体優性遺伝病、2011年

⑦辻野久美子、病態生理DS：病態生理事典（分担）常染色体劣性遺伝病、2011年

⑧辻野久美子、病態生理DS：病態生理事典（分担）X連鎖優性遺伝病、2011年

⑨辻野久美子、病態生理DS：病態生理事典（分担）X連鎖劣性遺伝病、2011年

⑩辻野久美子、病態生理DS：病態生理事典（分担）染色体異常、2011年

⑪辻野久美子、病態生理DS：病態生理事典（分担）ダウン症候群、2011年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

辻野 久美子 (TSUJINO KUMIKO)

琉球大学・医学部・教授

研究者番号：60269157

(2) 研究分担者

塚原 正人 (TSUKAHARA MASATO)

山口大学大学院・医学系研究科・元教授

研究者番号：20136188

村上 京子 (MURAKAMI KYOKO)

山口大学大学院・医学系研究科・教授

研究者番号：10294662

守田 孝恵 (MORITA TAKAE)

山口大学大学院・医学系研究科・教授

研究者番号：00321860

Turale Susan (TURALE SUSAN)

山口大学大学院・医学系研究科・元教授

研究者番号：30420516

飯野 英親 (IINO HIDECHIKA)

西南女学院大学・看護学科・教授

研究者番号：20284276

古謝 安子 (KOJA YASUKO)

琉球大学・医学部・教授

研究者番号：30305198

沓脱 小枝子 (KUTSUNUGI SAEKO)

山口大学大学院・医学系研究科・助教

研究者番号：50513785

儀間 繼子 (GIMA TSUGIKO)

琉球大学・医学部・助教

研究者番号：80315473

(3) 連携研究者

なし